

国保ヘルスアップモデル事業
—指定市町村概況票—

1. 概況(平成 16 年 4 月 1 日現在)			
総人口	388,985人	国保被保険者数	135,178人
	(うち 40~64 歳人口 131,051人)		(うち 40~64 歳 41,162人)
	(うち 65 歳以上人口 61,804人)		(うち 65 歳以上 50,184人)
	(うち 75 歳以上人口 24,622人)		(うち 75 歳以上 20,811人)

2. 市町村の健康に関する対応					
関係機関 スタッフ状況	部署名	スタッフ状況(上段:常勤、下段:非常勤)			
		事務職員	保健師	栄養士	その他
	国民健康保険関連部署 (保 険 年 金 課)	32人	人	人	人
		22人	人	人	人
	健康づくり部署 (市 民 健 康 課)	8人	23人	2人	1人
		人	人	2人	2人
その他(※福祉健康部4課にも 保健師等を配置している)	人	7人	2人	1人	
	人	人	人	人	
現在実施 しているヘル スアップモデ ル事業以外 の健康づくり に関する保健 事業	健康相談・健康教育(集団・個別)・健康度評価・機能訓練(介護予防事業含む)				
市町村内の 健康増進のた めの資源状況	あり (ありの場合は施設名を記入してください) 1. 財団法人 藤沢市保健医療財団 藤沢市保健医療センター ①健康づくりトレーニング室 ②機能訓練室 ③健診センター (保健事業部・医療事業部を中心に地域医療機関等と連携している)				
健康増進 計画の 策定期期	2003年3月に「藤沢市高齢者保健福祉計画2007」に組み込んだ				

3. 市町村の健康状況と課題	
基本健診	<p>1) 受診者数 (平成 15 年 度実績)</p> <p>対象者数: 196,590人(うち国保被保険者数: 118,000人)推計 受診者数: 71,002人(うち国保被保険者数: 不明 人)</p> <p>2) 基本健診 からみた課 題</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本健診から統計上全体としての健康状況と課題はみえていない(検査数値のデータベース化がされていない、問診票がない) 老健報告上の疾病分類からは高脂血症以外変化はみられない。高脂血症はH11年から各年齢層ともに増加がみられる。虚血性心疾患の増加はなし。医療費への影響は未把握。 直接市民サービスである老人保健事業(健康相談、健康教育)を通して、医療機関によって健診結果の説明方法・指導方法に違いがあることを把握している。
医療費分析 からみた課題	未実施
健康増進計 画等にかかる 実態調査 からみた課題	自分の健康状態の把握が適切にできていない人が多く、要治療領域になって医師・保健師等の機能を改善のために利用している。全体に「予防」という概念が低い傾向がみられているため、各種予防教室への参加や継続した健康づくりができていく状況がある。特に若い世代がタイムリーな改善への働きかけが難しい。
その他	
全体的な 健康課題	健康診査等で把握した受診者自身の健康状態の維持・向上にどのような方法を用いているか把握できていない。藤沢市は都市型の街で医療機関も多く、相談・治療等の機会は十分確保できていることは基本健康診査の受診率の高さでも理解できる。しかし、「適切な状態改善」の方法が必要な時期に受診者に提供できているかが、市として実態が把握できていない。このため、有効な事後フォローの手だてが確保できていないことが大きな課題である。

国保ヘルスアップモデル事業
 -平成 15 年度実績報告調書 A 票-

1. 回答者	
氏名	小堀 悦孝
所属	藤沢市保健医療財団医療事業部
連絡先	TEL(0466-88-7300) FAX(0466-88-7353)
	E-mail(ksuishin@shonanfujisawa.com)

2. モデル事業の実施概要	
対象とする生活習慣病名	高血圧症(高血圧)、高脂血症、糖尿病(高血糖)、肥満(症)
対象とする生活習慣	栄養・食生活、運動
個別健康支援プログラムの種類	<p>① コース 1(健康相談) 469名</p> <p>② コース 2(健康相談+栄養相談+集団教室) 154名</p> <p>③ コース 3(健康相談+栄養相談+健康づくりトレーニング+集団教室) 355名</p> <p>集団教室とは、藤沢市保健事業として実施する生活習慣病予防教室・食生活教室・ウォーキング教室・筋力づくり教室を示す</p> <p>介入群総数978名 (介入開始時総数997名から同意撤回者7名と健康相談を一度も受診しない12名を除いた人数)</p>

3. 事業実施体制											
実施主体	事業実施本部	<p>事業本部</p> <p>①事業本部長 窪島 助役 久世 部長 浅木 参事 加藤 課長 佐藤 参事 笹生 参事 ②財団法人藤沢市保健医療財団 笠岡 所長 ③共立女子大学・東京大学評価チーム 川久保 教授</p> <p>事業実施者 財団法人藤沢市保健医療財団 センター内に健康教育推進担当室を設置し、モデル事業実施のための実務者専用の部屋とした</p>									
	実務者会議	<p>①保険年金課 川竹 課長補佐 岡田 主査 市民健康課 高橋 課長補佐 稲生 主査 北保健センター（市民健康課） 森屋 主幹</p> <p>②財団法人藤沢市保健医療財団 村上 管理部長 小堀 医療事業部長</p>									
	プログラムの実施に関わっている委託機関と委託内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>委託機関名</th> <th>委託内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>財団法人藤沢市保健医療財団</td> <td>すべてのプログラム実施</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	委託機関名	委託内容	財団法人藤沢市保健医療財団	すべてのプログラム実施					
委託機関名	委託内容										
財団法人藤沢市保健医療財団	すべてのプログラム実施										
評価主体	共立女子大学 川久保 清 教授をチーフとした評価チーム										

4. モデル事業実施にあたって実施を開始した保健事業

特になし
 藤沢市民を対象とする藤沢市保健事業(資料参照)は従来通り実施し、モデル事業と併用して利用を促した

5. 医療費分析の実施状況

医療費分析の実施の有無 ※実施:○、実施せず:×	○
集計対象予定期間	平成 13 年度(介入スタート前 1 年)、平成 14 年度(介入開始年)、平成 15 年度(介入開始 2 か年後)
集計対象	介入群および対照群の年間医療費
集計内容	入院・入院外・歯科・調剤・その他の年代別 受診率、1 人あたり医療費、1 件あたり日数・医療費、一日あたり医療費
集計単位	コース毎、対照群(それぞれ年代別)
集計実施状況	平成 13 年度については、対照群・介入群を男女別・年代別に年間医療費の以下の項目を集計した。(医科入院、医科入院外、歯科、調剤、その他別) 被保険者数、受診件数、受診日数、総医療費、受診率、一件あたり医療費、1 人あたり医療費、一件あたり日数、1 日あたり費用額

国保ヘルスアップモデル事業
 —平成 15 年度実績報告調書 B 票(コース1)—

1. 個別健康支援プログラムの概要				
	期	時期	期間	介入回数
プログラムの実施予定期間	強介入期間 ※1 か月に 1 回以上の介入がある場合	年 月 ～ 年 月	ヶ月	回
	一般介入期間 ※1 か月に 1 回未満の介入がある場合	平成15年 4月 ～ 16年 3月	12ヶ月	健康相談 1回
	合計	平成14年 6月 ～ 16年 12月	31ヶ月	モデル事業 中健康相談 3回予定
プログラム終了後のフォローアップ期間 ※プログラム終了後に、効果の継続性の確認や効果測定のために介入群と接触する場合		年 月 ～ 16年 12月 (同じ対象者に平成16年度まで継続予定)	ヶ月	回
対象とする生活習慣病名	高血圧症, 高脂血症、糖尿病、肥満症			
対象年齢層	30歳 ～ 69歳 (含70歳以上2名) (以下、年齢・年代は平成14年3月31日時点で示す)			
個別健康支援プログラムの特徴 ※このプログラムを企画した意図やねらい、プログラムの新規性や独自性	①健診時の事後指導として健康相談を行う。 ②生活習慣が定着する中高年以前(30歳代)を主たる対象者として健康教育を行う。 ③健診を受けることの重要性と、健診の結果を理解して、病気予防・改善に役立てる。			

2. 介入群と対照群の設定状況								
介入群	参加者の性別、年齢		40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
		男性	214人	1人	2人	15人	1人	233人
		女性	219人	2人	4人	10人	1人	236人
		計	433人	3人	6人	25人	2人	469人
	参加者の健康保険加入状況	国民健康保険加入者数 (469)人 政府管掌健康保険加入者数 (0)人 組合管掌健康保険加入者数 (0)人						
	脱落者数	転居・死亡・発病 (16人) その他 (131人)(平成15年度健康相談未受相談者を含む)						
	選定基準 ※母集団の設定状況、選定条件(検査値など具体的な情報も含む)	藤沢市保健医療センターにて実施している健康診断時の事後指導としての保健相談を希望する人を募集の対象とした。 応募の対象は主として「ヘルスチェック」受診者としたが、その他の健診も可とした。「ヘルスチェック」とは、30歳代の藤沢市国保被保険者を対象とする、藤沢市が助成を行う健診事業で、例年1,400名程度が受診する。 原則として健康度ⅡおよびⅢに該当する人とした。						
グループ分けの状況(有無・方法) ※同一プログラム参加者の中でのグループ分けの有無と方法	特になし 健康相談以外に健康づくり運動・栄養相談を希望する人にはコース2,3への変更を行った							
ドロップアウト防止のための対策 ※参加者の参加が継続されるために特に工夫したこと	参加者には年1回の健康相談の案内を行い、期日までに申し込みのなかった291名(30歳代191名、40歳以上100名)に対し、延べ336件の電話介入を実施。連絡の取れない90名には返信用封筒やファックス用紙を同封した案内文を再送した。また、健診(ヘルスチェック)の申込期間を延長。ヘルスチェック対象外となった人37名には当センターでの健診(効果測定)の受診勧奨を行った。							
対照群	参加者の性別、年齢		40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
		男性	105人	103人	291人	1484人	0人	1983人
		女性	157人	165人	562人	1967人	0人	2851人
		計	262人	268人	853人	3451人	0人	4834人
	参加者の健康保険加入状況	国民健康保険加入者数 (4,834)人 政府管掌健康保険加入者数 (0)人 組合管掌健康保険加入者数 (0)人						
脱落者数	転居・死亡・発病(0人) その他 (0人)							

	選定基準 ※母集団の設定状況、選定条件(検査値など具体的な情報も含む)	平成14年度に30～69歳(1933年4月1日から1973年3月31日生)の藤沢市国保被保険者から20,852名を無作為に抽出し、調査を行った(以下「大規模調査」)。生活習慣調査票記入および個人情報に関する同意書に署名した回答者4,834名を対照群母集団とした。対照群母集団から年齢・健康度をマッチさせた対照群を選定する。
--	---	---

3. 個別健康支援プログラムの具体的内容																					
プログラムの内容・方法	内容	運動	プログラム内の実践(指導あり)	ウォーキング	×																
			※ほぼ毎回実施:◎ 時々実施:○ 実施しない:×	ストレッチ	×	筋カトレーニング	×	自転車エルゴメーター	×	リズム体操	×	ダンベル体操	×	エアロビクス	×	水中ウォーク	×	アクアビクス	×		
プログラムの内容・方法	内容	運動	自己実践	※実施:○	ウォーキング	×	ストレッチ	×													
				実施しない:×																	
		食生活	食事に関する講義(情報提供)	×																	
		※実施:○	調理実習	×																	
		実施しない:×	試食会	×																	
		その他	健診時の事後指導(年1回)としての健康相談を実施し、その後2年間追跡するプログラムである。																		

3. 個別健康支援プログラムの具体的内容(続き)									
プログラムの 内容・方法	実施方法	実施方法		実施回数 ※実施回数を記入	内容※実施する内容に○				
					運動	食事	その他		
		講義(情報提供)				回			
		面接指導				1回	○	○	○
		通信指導	手紙・電話		2回				
			メール等 IT		回				
		実技指導				回			
		グループワーク				回			
		個人メニュー作成 ※プログラムの中で参加者個人個人に対しての目標設定等				/	○	○	○
						回			
				回					
				回					
自己管理表 の使用状況 ※自宅等における 生活習慣の自己管理 を促すために使用 した記録表等のこと	自己管理内容		管理表等の 使用の有無 ※使用:○ 使用せず:×		指導者による確認状況 ※毎回確認:◎ 時々確認:○、 確認せず:×				
	体重		○		◎				
	歩数		○		○				
	食事内容		×						

4. 対照群に対して行った保健事業				
対照群に対して 行った保健事業	内容 ※あてはまるもの すべてに○	特になし(情報提供のみ)		○
		結果説明会		
		他の保健事業利用の紹介		
		その他()		

5. 個別健康支援プログラムの効果と課題	
<p>評価指標以外でみられた効果 ※評価指標上の効果としては現れていないが、それ以外にプログラムの効果としてみられたもの</p>	<p>30歳代の健診受診率が上がったこと。</p>
<p>問題点や課題 ※プログラムの実施にあたって問題点として把握されたこと、これからの課題として捉えられたこと</p>	<p>30歳代を対象に保健指導を行うことは、中長期的には病気予防・改善などにより医療費減少は期待するが、短期的にみれば専門職の人員費・健診費用など保健医療に係わる費用は増加する。</p>

国保ヘルスアップモデル事業
 —平成 15 年度実績報告調書 B 票(コース2)—

1. 個別健康支援プログラムの概要				
	期	時期	期間	介入回数
プログラムの実施予定期間	強介入期間 ※1か月に1回以上の介入がある場合	年 月 ~ 年 月	ヶ月	回
	一般介入期間 ※1か月に1回未満の介入がある場合	平成15年 4月 ~ 16年 3月	12ヶ月	健康相談 2回 栄養相談 1回
	合計	平成14年 6月 ~ 16年 12月	31ヶ月	健康相談 5回 栄養相談 2回予定
プログラム終了後のフォローアップ期間 ※プログラム終了後に、効果の継続性の確認や効果測定のために介入群と接触する場合	年 月 ~ 16年12月 (同じ対象者に平成16年度まで継続予定)		ヶ月	回
対象とする生活習慣病名	高血圧症, 高脂血症、糖尿病、肥満症			
対象年齢層	30歳 ~ 69歳 (含70歳以上4名)			
個別健康支援プログラムの特徴 ※このプログラムを企画した意図やねらい、プログラムの新規性や独自性	生活習慣病予防・改善のため栄養相談を希望する人、栄養指導が必要とされる人を対象に、個別相談により健康度を維持・改善するプログラムである。 従来から実施している藤沢市保健事業である食生活教室(集団教室)・ヘルシークッキング教室(調理実習)等を利用しながら、モデル事業では個別支援(個別健康相談と栄養相談)を継続することで、設定した目標を達成するよう指導する。			

2. 介入群と対照群の設定状況								
介入群	参加者の性別、年齢		40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
		男性	3人	3人	7人	38人	2人	53人
		女性	10人	5人	20人	64人	2人	101人
		計	13人	8人	27人	102人	4人	154人
	参加者の健康保険加入状況	国民健康保険加入者数 (154)人 政府管掌健康保険加入者数 (0)人 組合管掌健康保険加入者数 (0)人						
	脱落者数	転居・死亡・発病 (4人) その他 (8人)(平成15年度健康相談未受相談者を含む)						
	選定基準 ※母集団の設定状況、選定条件(検査値など具体的な情報も含む)	生活習慣病の予防・改善に食生活の改善が望まれる人・希望する人。 健康度がⅡおよびⅢに該当する人を原則とするが、希望する人(健康度Ⅰ)治療上必要とされる人(健康度Ⅳ)も対象としている。						
グループ分けの状況(有無・方法) ※同一プログラム参加者の中でのグループ分けの有無と方法	なし							
ドロップアウト防止のための対策 ※参加者の参加が継続されるために特に工夫したこと	参加者全員に年2回の健康相談を案内し、参加者の都合によっては栄養相談を同日に行うなどして相談を受けやすいように調整した。期日までに申し込みのなかった延べ126名に対し延べ153件の電話介入を実施。連絡の取れない109名(コース3との合計数)には、返信用封筒やファックス用紙を同封した案内文を再送。33名に再再送し継続を促すとともに健診未受診の人には当センター健診(効果測定)の受診勧奨を行った。							
対照群	参加者の性別、年齢		40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
		男性	105人	103人	291人	1484人	0人	1983人
		女性	157人	165人	562人	1967人	0人	2851人
		計	262人	268人	853人	3451人	0人	4834人
	参加者の健康保険加入状況	国民健康保険加入者数 (4,834)人 政府管掌健康保険加入者数 (0)人 組合管掌健康保険加入者数 (0)人						
脱落者数	転居・死亡・発病(0人) その他 (0人)							
選定基準 ※母集団の設定状況、選定条件(検査値など具体的な情報も含む)	平成14年度に30～69歳(1933年4月1日から1973年3月31日生)の藤沢市国保被保険者から20,852名を無作為に抽出し、調査を行った(以下「大規模調査」)。生活習慣調査票記入および個人情報に関する同意書に署名した回答者4,834名を対照群母集団とした。対照群母集団から年齢・健康度をマッチさせた対照群を選定する。							

3. 個別健康支援プログラムの具体的内容(続き)

プログラムの 内容・方法	実施方法	実施方法	実施回数 ※実施回数 を記入	内容※実施する内容に○			
				運動	食事	その他	
プログラムの 内容・方法	実施方法	講義(情報提供)	回				
		面接指導	3回	○	○	○	
		通信指導	手紙・電話	2回			
			メール等IT	回			
		実技指導	回				
		グループワーク	回				
		個人メニュー作成 ※プログラムの中で参加者個人個人に対する目標設定等		○	○	○	
			回				
		回					
			回				
自己管理表 の使用状況 ※自宅等における 生活習慣の自己管 理を促すために使 用した記録表等のこ と	自己管理内容	管理表等の 使用の有無 ※使用:○ 使用せず:×		指導者による確認状況 ※毎回確認:◎ 時々確認:○、 確認せず:×			
	体重	○		◎			
	歩数	○		○			
	食事内容	×					

4. 対照群に対して行った保健事業

対照群に対 して行った保 健事業	内容 ※あてはまるもの すべてに○		
	特になし(情報提供のみ)		○
	結果説明会		
	他の保健事業利用の紹介		
	その他()		

5. 個別健康支援プログラムの効果と課題	
<p>評価指標以外でみられた効果</p> <p>※評価指標上の効果としては現れていないが、それ以外にプログラムの効果としてみられたもの</p>	<p>栄養に関する情報・自分の身体状態に合った栄養の取り方を正しく理解していない人が非常に多いことが認識された。</p>
<p>問題点や課題</p> <p>※プログラムの実施にあたって問題点として把握されたこと、これからの課題として捉えられたこと</p>	<p>栄養に関する保健事業は、必要性がありながら関心が薄く、参加者の確保が難しいこと。アピール・啓蒙の方法には、工夫を要すること。</p>